

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。



さて昨年来、鳴門にコウノトリのつがい、飛来し、ずいぶん話題となりました。今は、時々、別々に鳴門のレンコン畑から吉野川第十堰や吉野川流域を広く、飛んで餌をついばんでいます。このコウノトリについて、昨秋、県は、定住化を目指し、その環境を保全するため、鳴門のレンコン畑など約500ヘクタールの土地をコウノトリ鳥獣保護区に指定しました。今年の繁殖期には、無事にコウノトリの赤ちゃんが、生まれることを期待したいものです。

一方、三宅氏(日本野鳥の会徳島県支部)によると、今年は、ナベズルの飛来数が、例年より多く、130羽が、徳島に飛来し、そのうちの36羽が、越冬しているとのこと。特に圃場整備していない田んぼにナベズルが来て餌をついばんでいると聞きました。

コウノトリやナベズルなどの胃袋を満たす餌が、徳島の自然環境(田んぼ、レンコン畑を含めて)には、多くあるのでしょうか。

しかし、全国の湿地\*が、減少している現状があり、コウノトリが、えさを探し求めて全国をダイナミックに飛び回っていると(佐竹氏:コウノトリ湿地ネット)聞くと、少なくとも現在ある湿地を保全していくことがいかに重要なことかと改めて思います。翻って、吉野川では、阿波しらす大橋からわずか1.8kmの河口に、四国高速道路の橋の建設が予定されており、鳥たちが、建設後も干潟に降り立って餌をついばんだりしてくれるか、生態系に影響がないか心配なところです。



吉野川を守る手段として、今年こそは、すでに潜在候補地となっている吉野川河口域のラムサール条約湿地登録を、コウノトリの力も借りて、いろいろな皆さんと共に、道筋をつけていきたいと考えています。どうか今年もご支援、ご協力をお願いいたします。(藤永)

\*湿地とは、天然、人口かは問わず、また永続的か、一時的なものは問わず、淡水、汽水かも問わず、沼沢地、湿原、泥炭地または水域を言い、低潮時における水深6メートルを超えない海域を含む。